

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年9月18日 (2014.9.18)

【公表番号】特表2013-532665(P2013-532665A)

【公表日】平成25年8月19日 (2013.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-044

【出願番号】特願2013-520933(P2013-520933)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/145 (2006.01)

A 6 1 K 39/155 (2006.01)

A 6 1 K 39/235 (2006.01)

A 6 1 K 39/295 (2006.01)

A 6 1 K 39/102 (2006.01)

A 6 1 K 39/085 (2006.01)

A 6 1 K 39/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/282 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 39/00 A

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 39/145

A 6 1 K 39/155

A 6 1 K 39/235

A 6 1 K 39/00 J

A 6 1 K 39/295

A 6 1 K 39/102

A 6 1 K 39/085

A 6 1 K 39/09

A 6 1 K 39/00 K

A 6 1 K 31/282

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月28日 (2014.7.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

胃腸管（G I T）の領域において症状を示す炎症性腸疾患（I B D）ヒト患者の処置のための抗原性組成物であって、前記抗原性組成物が、少なくとも 1 の病原体について一緒に特異的である抗原決定基を含み、前記病原体が前記 G I T の領域において病原性であることに基づいて前記病原体が選択され、
前記領域が小腸領域であり、かつ、前記病原体が大腸菌、クロストリジウム・ディフィシル、バクテロイデス・フラギリス、バクテロイデス・ブルガタス、バクテロイデス・テタ

イオタオミクロン、クロストリジウム・パーフリンジェンス、サルモネラ・エンテリディティス、エルシニア・エンテロコリチカ、シゲラ・フレキシネリ、アデノウイルス、アストロウイルス、カリシウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス及びサイトメガロウイルスからなる群から選択される；

前記領域が結腸若しくは直腸領域であり、かつ、前記病原体が大腸菌、クロストリジウム・ディフィシル、バクテロイデス・フラギリス、バクテロイデス・ブルガタス、バクテロイデス・テタイオタオミクロン、クロストリジウム・パーフリンジェンス、サルモネラ・エンテリディティス、エルシニア・エンテロコリチカ、シゲラ・フレキシネリ、アデノウイルス、アストロウイルス、カリシウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス及びサイトメガロウイルスからなる群から選択される；

前記領域が肛門領域であり、かつ、前記病原体が大腸菌、ストレプトコッカス・ピオゲネス、バクテロイデス種、フソバクテリウム種、嫌気性連鎖球菌、クロストリジウム種、エンテロバクター種、シュードモナス・エルギノサ、トレポネマ・パリダム及び単純ヘルペスウイルスからなる群から選択される；

前記領域が口腔領域であり、かつ、前記病原体がプレボテラ・メラニノゲニカス、嫌気性連鎖球菌、緑色連鎖球菌、アクチノミセス種、ペプトストレプトコッカス種、バクテロイデス種、単純ヘルペスウイルス、コクサッキーウイルス及びエプスタイン・バーウイルスからなる群から選択される；又は

前記領域が胃領域であり、かつ、前記病原体がストレプトコッカス・ピオゲネス、ヘリコバクター・ピロリ、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス、エプスタイン・バーウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス及びアデノウイルスからなる群から選択される、前記抗原性組成物。

【請求項 2】

I B D が、クローン病、潰瘍性大腸炎、コラーゲン形成大腸炎、リンパ球性大腸炎、虚血性大腸炎、空置大腸炎、ベーチェット症候群及び不確定大腸炎からなる群から選択される、請求項 1 に記載の抗原性組成物。

【請求項 3】

投与部位にて、1 時間から 1 ヶ月の投薬間隔で与えられる逐次的な用量で、少なくとも 2 週間、2 カ月、又は 6 カ月の投薬持続期間にわたって投与される、請求項 1 又は 2 に記載の抗原性組成物。

【請求項 4】

各用量が投与部位にて目視可能な局所的炎症性免疫応答を引き起こすために効果的である用量で投与される、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 5】

皮内又は皮下投与される、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 6】

腸内でない経路により投与される、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 7】

投与部位での目視可能な局所的炎症が 1 ～ 48 時間以内に生じるように投与される、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 8】

目視可能な局所的炎症が、直径 2 mm ～ 100 mm の面積の炎症であり、投与の 2 ～ 48 時間後に現れてよく、2 ～ 72 時間持続してよい、請求項 7 に記載の抗原性組成物。

【請求項 9】

ヒト患者に、有効量の抗炎症又は免疫抑制医薬品がさらに投与される、請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 10】

医薬品が、スルファサラジン、メサラミン、コルチコステロイド、アザチオプリン、メルカプトプリン、インフリキシマブ、アダリムマブ、セルトリズマブペゴール、メトトレキサート、シクロスポリン又はナタリズマブである、請求項 9 に記載の抗原性組成物。

【請求項 1 1】

G I T の領域においてそれぞれ病原性である 1 又は 2 以上の病原体の抗原決定基から本質的になる、請求項 1 ～ 1 0 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 1 2】

ヒト患者が、以前に病原体に対して病原的曝露を受けたことがあると診断される、請求項 1 ～ 1 1 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 1 3】

病原体が細菌であり、抗原性組成物が死滅細菌細胞全体の組成物である、請求項 1 ～ 1 2 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 1 4】

I B D がクローン病であり、病原体が大腸菌である、請求項 1 ～ 1 3 のいずれかに記載の抗原性組成物。

【請求項 1 5】

病原体が大腸菌である、請求項 1 ～ 1 3 のいずれかに記載の抗原性組成物。